

# 競 技 注 意 事 項

本大会の競技は、2026年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに大会要項によって行う。

## 1. ウォーミングアップ・練習について

- ア. メイン競技場での練習の時間帯は7:30～8:45とする。補助競技場での練習は、1日目は8:30～12:40、2日目は8:30～13:45とする。ただし、メイン競技場や補助競技場での練習は今大会にエントリーしている選手のみとし、補助競技場や室内練習場への選手、役員以外の立入りを禁止する。
- イ. メイン競技場、補助競技場とも競技場備え付けの用具を使用すること。ラダー、ミニハードル、ゴムチューブ等を使用してのスピード練習は禁止する。
- ウ. レーンの使用は、1・2レーンは周回のスピード練習（ジョグ等はレーンの外側で行うこと）、3～7レーンは短距離練習、8・9レーンはハードル練習とする。バトン練習については、バックストレートのみとする。
- エ. 投てき練習（メディシンボール等を含む）は、競技場の内外を問わず一切禁止する。
- オ. ウォーミングアップは補助競技場および室内練習場で行うこと。メイン競技場通路や駐車場周辺でのダッシュ等のウォーミングアップは禁止する。
- カ. 室内練習場は、短距離系のスピード練習と長距離のジョグは混在しないように注意すること。また走る方向は彦根城側から大型スクリーン側とする。砂場は使用不可とし、助走路はジョグとして使用可とする。

## 2. 招集について

- ア. 競技者の招集場所は第3ゲートバックスタンド下に設ける。
- イ. 招集時刻はその競技の開始時刻を基準とし、下記のように定める。

トラック競技・・・1組～4組	25分前に開始し15分前に終了する。
5組～8組	15分前に開始し5分前に終了する。
- ウ. 招集の手順
  - ① 競技者は招集完了時刻までに招集所に集合し、点呼を受ける。その際、係員にアスリートビブスとシューズ、トラック競技のセパレートレーン種目は腰ナンバー標識の確認を受けたのち、係員の誘導に従って入場する。
  - ② 四種競技の競技者は、種目ごとに招集所で競技者係の点呼を受ける。
- エ. 携帯電話、スマートフォン、タブレット等の機器は招集所内、競技エリア内に持ち込むことはできない。

## 3. 競技について

- ア. 危険防止のため、各走者はフィニッシュ後レーンに沿って曲走路を走る。
- イ. アスリートビブスについて
  - ① アスリートビブスは陸協登録ナンバーとし、男子は黒字、女子は赤字で明瞭に書き、必ず胸、背につけること。ただし、跳躍競技に出場する選手は胸部または背部だけでよい。
  - ② 本大会のトラック競技はすべて電気計時とする。写真判定にともなう腰ナンバー標識は陸協登録ナンバーで作成する。100m、200m、400m、110mH、100mHおよびリレーの第4走者は、陸協登録ナンバーの腰ナンバー標識（男女とも黒字）を右腰後方につけること。
  - ③ 800m、1500m、3000mについては、主催者が用意する別腰ナンバー標識を使用する。スタート前に大会役員から受け取り、フィニッシュ後に係に返却すること。
- ウ. トラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順はプログラム記載の順とする。準決勝以降の組み合わせは、番組編成員により公正に抽選のうえ決定する。編成された組み合わせは2階コンコースの掲示板に掲示する。
- エ. 準決勝あるいは決勝進出における $\pm\alpha$ は100分の1秒単位とする。同タイムが多くレーンが不足する場合は1000分の1秒まで読み取り、進出者を決定する。ただし、同記録者がありレーン数が不足する場合は、本人の抽選により決定する。
- オ. リレー種目について
  - ① リレー競走については、競技規則TR24.10を厳守すること。
  - ② 同一チームの4名は同一のユニフォームを着用することが望ましい。
  - ③ 各走者は1カ所にかぎり粘着テープをマーカーとして使用できる（テープの大きさは50mm×400mm以内）。平和堂HATOスタジアムでは養生テープを使用すること。
  - ④ 各走者はバトンの受け渡しを終えた後は、他の競技者の邪魔にならないようレーン内にとどまること。
  - ⑤ リレーオーダー用紙について、予選はオーダー用紙を学校受付時に受け取り、1組目招集完了時刻1時間前までに競技者係に1部提出すること。決勝はオーダーに変更がある場合のみ、招集完了時刻1時間前までに競技者係に1部提出すること。
- カ. 「不適切なスタート動作（不適切行為）」があった場合は、グリーンカードによる注意を与える。また、同一競技者による注意が多発した場合は、審判長等により警告を与えることがある。同じ競技者が同じレースの中で2度の警告があった場合は、不正スタートとみなす。不正スタートを行った競技者は1回で失格となる（ただし、四種競技においては、不正スタート2回目以降は誰でも失格の対象となるルールを適用する）。

- キ. 競技規則TR17.3.3、TR17.3.4により、曲走路でレーンの左側の白線を踏んだ回数は、同一種目の次のラウンドに繰越し、累計2回で失格となる。なお、1回であっても他の競技者の進行を妨害したと判定されたり、実質的な利益を得たと判定されたりした場合は失格となる。
- ク. 競技規則TR5.2の改訂に伴い、ソールの厚さが規定以上のシューズでは競技に出場できない。
- ケ. すべてのラウンド（予選を含む）において競技を棄権する場合は、棄権届を競技者係に申し出て受け取り、招集開始時刻の30分前までに競技者係に提出すること。なお、決勝を棄権した場合においても、その日その後の競技に出場することはできる。また、決勝および準決勝で棄権が出た場合においては、前ラウンドの結果より繰り上がった選手に出場権を与える。
- コ. 代理人による招集は認めない。ただし、同時に2種目を兼ねて出場する競技者は、最初の種目の招集開始時刻までに、競技者係に用意した「多種目同時出場届」に記入し、招集所の競技者係に提出すること。最初の種目からシューズが変わる場合は、「多種目同時出場届」を提出する際に2種目目で使用するシューズの点検も受けること。
- サ. 競技者に対する助力については、TR6.に準ずる。
- シ. フィールド種目A・Bピットは、  
走高跳、砲丸投・・・A 100mゴール側、B 100mスタート側とする。

#### 4. バーの上げ方

	種目	練習	上げ方
男	走高跳	1m50/1m65	1m55－1m60・・・1m75－1m80－1m83 以上3cm
	四種走高跳	1m35/1m50	1m40－1m45－1m50・・・1m65－1m68 以上3cm
	棒高跳	任意の高さ	2m40－2m50－2m60－2m70－2m80－2m90 以上10cm
女	走高跳	1m25/1m40	1m30－1m35－1m40－1m45－1m48－1m51 以上3cm
	四種走高跳	1m15/1m30	1m20－1m25・・・1m40－1m43－1m46 以上3cm
	棒高跳	任意の高さ	1m80－1m90－2m00－2m10－2m20－2m30 以上10cm

- ※走高跳の練習は上記のように二段階で実施するので、どちらかを選択すること。
- ※第1位が同成績の場合の順位決定は、同成績の競技者全員が成功した次の高さで行い、その後のバーの上げ下げは走高跳2cm、棒高跳5cmとする。

#### 5. 表彰

決勝において第8位（リレーは3位）までに入賞した選手は、決勝結果の通告後すみやかに表彰席に来ること。準備ができた種目から順次表彰を行う。ただし、盗撮防止の観点から、ユニフォームでの表彰は禁止する。

#### 6. 救急医療について

出場選手の競技中の疾病および傷害については、応急の処置は行うがそれ以後の責任は一切負わない。また、大会中の疾病および傷害については、必ず総務に届け出ること。

#### 7. その他

- ア. 規制エリア内への入場ができるのは競技者、補助員、競技役員、引率者とし、ADカードによる入場制限を行う。ただし、スタンドへの入場規制は行わない。
- イ. 競技場での競技者の移動については、本部前の通行およびメインスタンド下は立ち入り禁止とする。
- ウ. 競技者はトランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内で使用しないこと（競技規則TR6.3により競技者への助力とみなされ失格となる場合がある）。
- エ. テントは各校指定された場所に設置すること。
- オ. 更衣室の利用については、更衣のみとする。短時間での利用を徹底すること。
- カ. 助走マークやリレーマークなどで使用したテープは、確実にはがして持ち帰ること。
- キ. 貴重品等の管理は各校で十分注意すること。
- ク. 全日本中学校陸上競技選手権大会の出場資格を得た者は大会終了後に、出場手続きを行うこと。
- ケ. 暑さ指数（WBGT）が31を超えた場合は大会本部で協議し、大会を中断することがある。
- コ. 横断幕の設置は、サイドスタンドおよびバックスタンド最前列手すりとする。
- サ. メインスタンドでのテントの設置およびサイドスタンドの芝生の上にシートを敷くことを禁止する。
- シ. 写真や動画の撮影はスマートフォンのみとする。カメラやビデオカメラの撮影についてはTIC（正面玄関）にて受付をし、許可証を携行すること。以上を各学校から保護者へ周知すること。